

平成20年10月

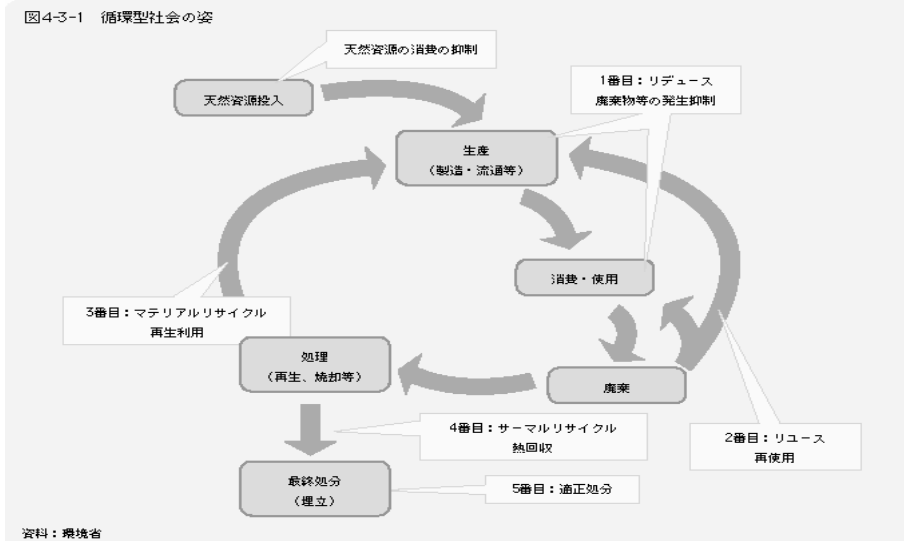
ひょうごエコタウン構想 の取組

兵庫県農政環境部環境管理局環境整備課

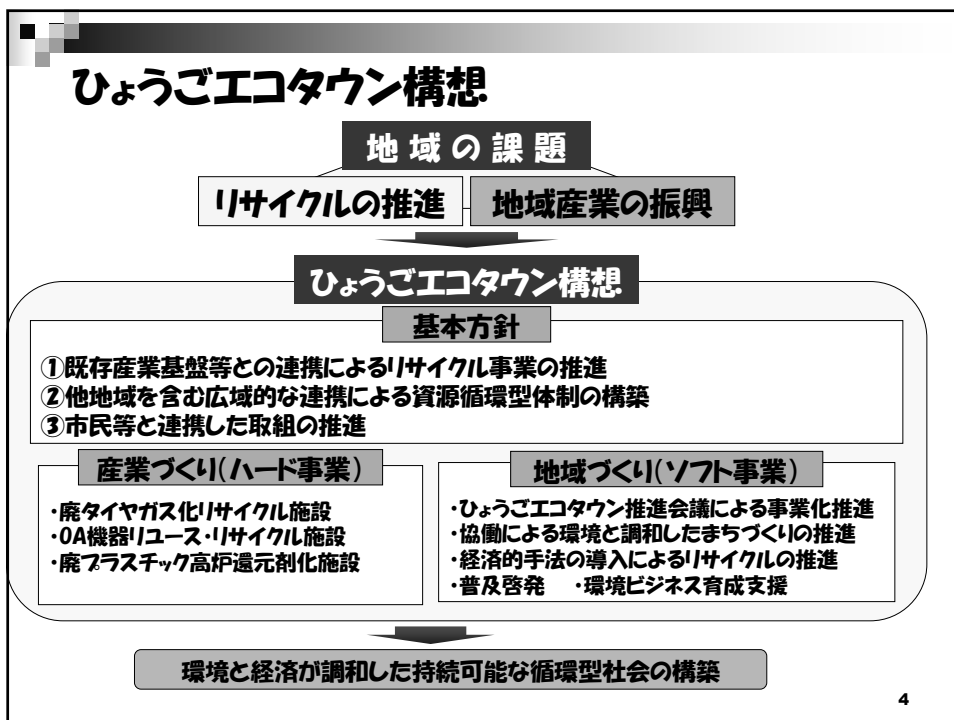
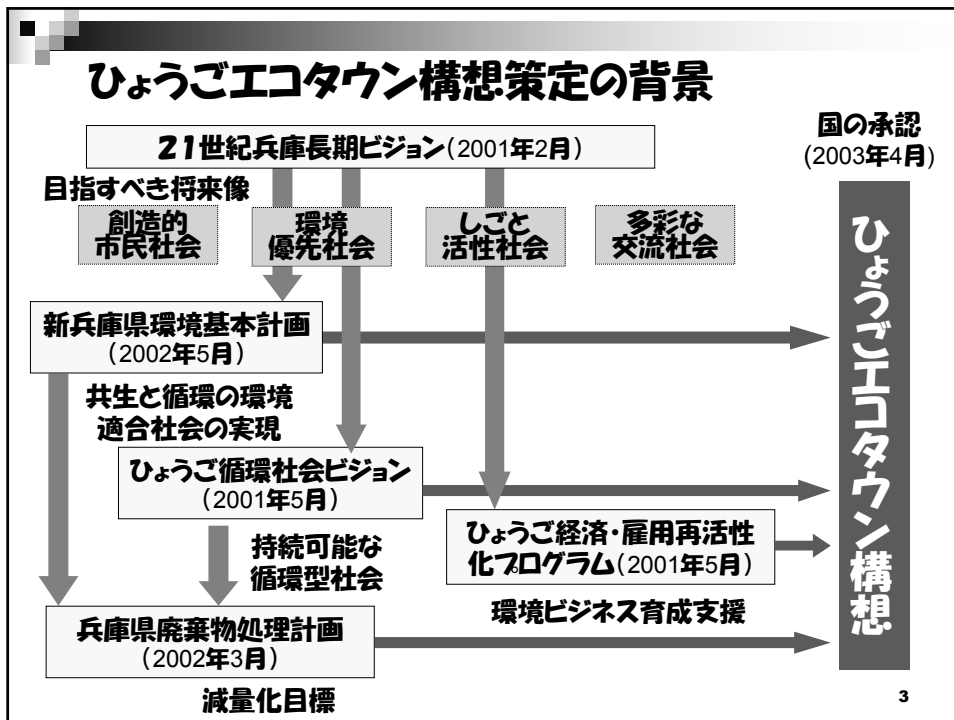
1

循環型社会の姿 (循環型社会基本法の考え方)

図4-3-1 循環型社会の姿



2



ひょうごエコタウン推進会議の設立

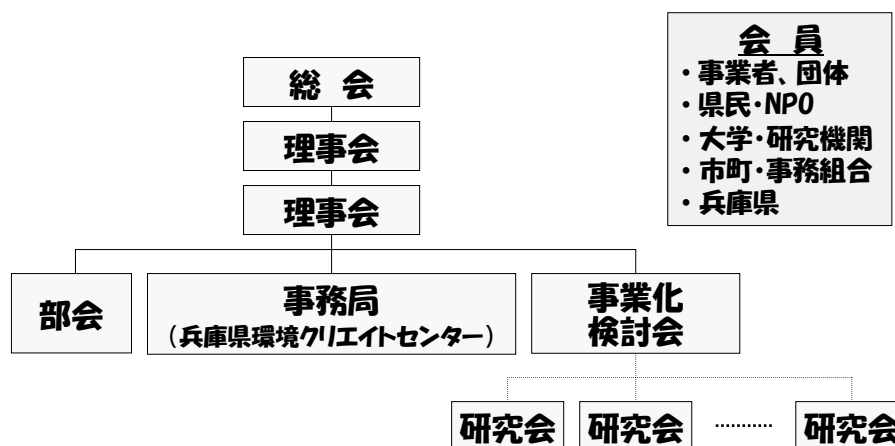
設立 2003年12月5日

目的 県民、事業者、行政等幅広い関係者の参画と協働のもと、ひょうごエコタウン構想に掲げる環境と調和したまちづくりを推進し、持続可能な循環型社会を形成していく。

事務局 (財) 兵庫県環境クリエイトセンター

5

ひょうごエコタウン推進会議の体制

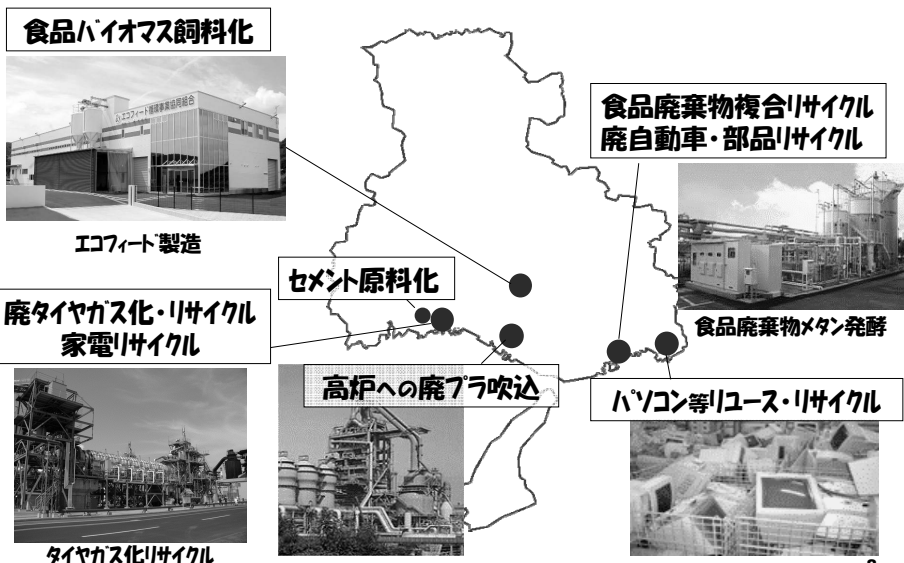


6

ひょうごエコタウン推進会議における研究会の変遷

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
▼ 広域リサイクル拠点整備 協議会設立			▼ ひょうごエコタウン承認 ▼ ひょうごエコタウン推進会議設立					
		● 複合廃棄物リサイクル研究会	● 廃タイヤガス化リサイクル (エコタウン補助)	● 鉄系処理困難物の資源化検討 ● スラグ・熔融飛灰研究会			● 食品残渣の有効利用	● 廃カラスの 適正リサイクル
● 食品廃棄物 リサイクル研究会		● 廃プラの高炉吹き込み		● ハイオマス研究会		● 食品ハイオマスの飼料化		● エコフィット製造 (農水省補助)
● 廃プラスチック化 リサイクル研究会		● パソコンリサイクル			● ハイオマス利用 技術研究会			
● OAIリサイクル 研究会		● 廃自動車のリサイクル 自動車部品のリユース			● FRP廃船 リサイクル			
● ELVIリサイクル 研究会					● 複合廃プラスチック からのTPA分離・回収			
								7

兵庫県におけるリサイクルへの取組



事業化事例1 廃タイヤガス化リサイクル



原料

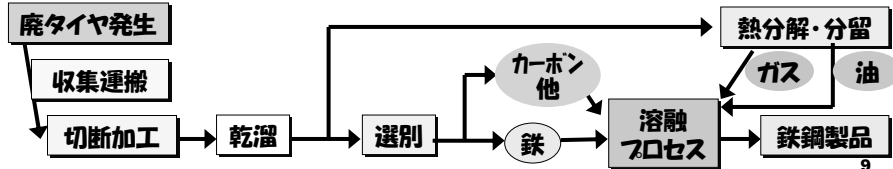
全国で多量に発生する
廃タイヤ
<(社)日本タイヤリサイクル協会>

利用先

高炉のない製鉄所

冷鉄源溶融炉(SMP炉)
<新日本製鉄所(株)広畑製鉄所>
※熱源として炭素が必要

(廃タイヤガス化プロセス)



事業化事例2 エコフィード循環事業(1)

低い飼料自給率
(2005年度25%)

輸入飼料の高騰

畜産農家の苦境

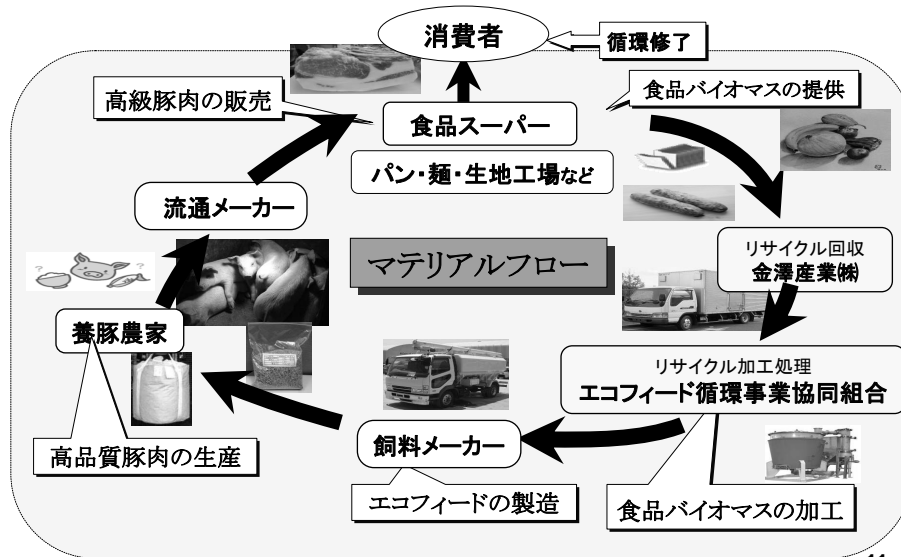
食品リサイクル法の改正(2007年6月)

* 肥料化や熱回収よりも“飼料化”を優先
* 業種別リサイクル実施率の設定
(製造85% 卸売70% 小売45% 外食40%)

食品スーパーや食品産業
から発生する
食品バイオマスの有効利用

輸入代替飼料としての安全・安心なエコフィード開発

事業化事例2 エコフィード循環事業(2)



エコタウン推進会議の機能拡充(2008～)

新たな環境課題への対応

廃棄物リサイクル以外の温暖化防止・省エネ・大気・
水質等の幅広い分野の研究開発・事業化推進

国際協力

国内外の環境ビジネスの育成・発展

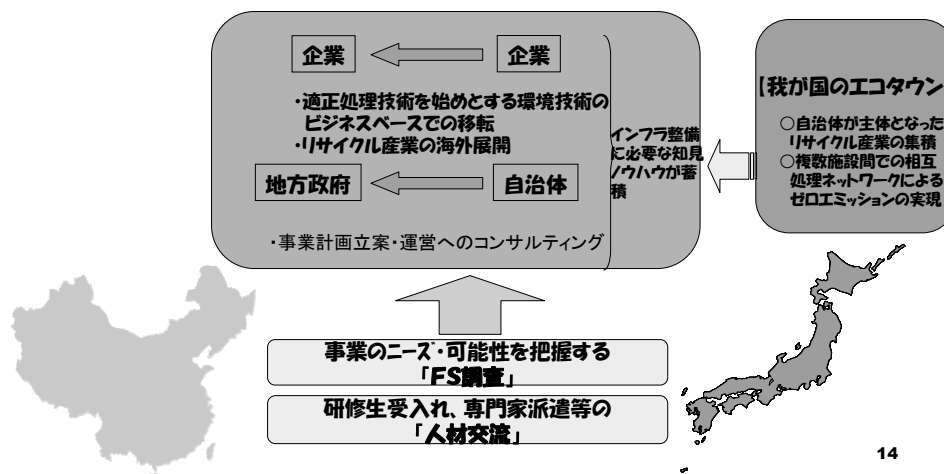
2008年度の主な研究テーマ

- 都市型残渣有効活用モデル事業化検討会
(食品廃棄物等を飼料等にリサイクル)
- 鉄鋼スラグの利用拡大研究会
(鉄鋼スラグを護岸改良・海洋構造物の素材にリサイクル)
- 廃ガラス適正リサイクル研究会
(廃ガラスの新しいリサイクル用途等の開発)
- バイオ燃料事業化検討部会
(廃食用油等からバイオディーゼル燃料を製造)

13

日中循環型都市協力事業(2008～)

エコタウンを軸にした中国・広東省との3R協力の推進



14

日中循環型都市協力事業（全体計画）

